



教委だより

No.376

平成22年5月25日

編集発行 富山県教育委員会

発行人 教育企画課長



左上:開校式に向かう新入生(富山工業高校) 右上:校名碑除幕式(南砺福野高校)
 中央:開校式での知事「開校の辞」(氷見高校)
 左下:新入生オリエンテーション(滑川高校) 右下:新入生ものづくり学の授業(高岡芸工高校)

新高校 5 校で開校式

— 県立高校再編による魅力と活力ある高校教育の推進 —

本県初となる県立高校の再編統合で開設された新高校5校の開校式が、4月8日、9日の両日にわたり各校で挙行されました。式では、石井知事が開校の辞を、鹿熊県議会議長が祝辞を述べ、真新しい制服姿の新入生や来賓各位等多くの列席者とともに、各校の新しい歴史の第一歩を祝いました。

新入生を前に、石井知事は、「新高校の一期生としての誇りと気概を胸に、友達と切磋琢磨しながら、勉強やスポーツに持てる力を存分に発揮してください。そして、教育への情熱あふれる先生方とともに、様々な課題にチャレンジし、自分の進む道を力強く切り拓かれるよう心から願っています」と、期待を込めて激励されました。

Contents (主な内容)

- ・平成22年度教育委員会事務局着任あいさつ 2 p ~ 3 p
- ・新規採用教員に辞令交付 3 p
- ・スポレクとやま2010に向けて 4 p
- ・スクールソーシャルワーカー活用事業 5 p
- ・とやま科学オリンピック調査検討委員会 5 p
- ・全国高等学校総合文化祭とやま 5 p
- ・子どもの読書活動の推進 6 p
- ・過重労働対策について 6 p
- ・教員採用選考検査のお知らせ 7 p
- ・インフォメーション 7 p
- ・学校レポート「富山市立中央小学校」 8 p
- ・リレーエッセイ「天網の効用」
富山県総合教育センター顧問 中西 彰 8 p

平成22年度 教育委員会事務局に新たに着任しました



はじめまして

教育次長 山崎 康至

はじめまして、山崎です。30年以上の県庁生活で初めて教育委員会に配属になりました。（「教育費」とのお付き合いは、結構長いのですが。）「教育」に、そして、それを支える「先生」の皆さん方に、「よろしくお願いします」という気持ちでいっぱいです。

特に学校教育については、自分自身あまり良い思い出もなく、自身の子供も放任してきたこともあって、関心も低かったと思っています。それゆえ？知識もほとんどないことからくる不安を抱えながら、新しい、知らないことが毎日いろいろ出てくることに、わくわくしています。どうか長い目で見て、私の教育もよろしくお願いします。

教育ほど投資に見合う成果が見えにくく、なかなか計れない分野はなく、また、これほどその成果が富山県はもとより、日本そして世界の将来にも大きな影響を及ぼすものはないのではないかと思います。それは、教育が「人」への投資にほかならないからだと考えています。（教育費の多くは、直接的には子どもたちを教える先生方の人件費であり、この投資そのものが子どもたちのための予算です。）物質的な豊かさから心の豊かさが追い求められる現代にあって、本当に大切で、一方で大変難しい仕事ですが、「子どもたちの幸せ」のために、少しでもお役に立てることを願って、努力していきたいと思っています。

教育企画課長 柴 雅棋



大きな可能性を秘める子どもたちに対して、学校と地域や家庭が一体となって、質の高い教育を提供していくことが大切です。

本県では、富山ならではの質の高い教育を行っていくための特色ある取り組みや環境整備を「富山スタンダード」として推進していますが、教育企画課においても、郷土について理解を深め誇りや愛着を育む「ふるさと教育」の充実や、子どもたちの科学への関心を高め、科学的才能を見出し伸ばす「とやま科学オリンピック」の実施に向け、努力してまいります。

生涯学習・文化財室長 木下 晶



本室の仕事は、生涯を通じて学ぶ権利の保障をめざす「生涯学習」、よりよい地域づくり活動を支援する「社会教育」、人類の歴史文化上の貴重な財産を後世に引き継ぐ「文化財」など、広い分野にわたっています。

また、本年4月からは、高校生の文化活動を大きく振興するため、平成24年に本県で開催する全国高等学校総合文化祭に向けて推進班が発足しました。県内高校等はもとより、県内15市町村全てのご協力を得て、皆さんの身近で全国選りすぐりの2万人もの高校生が23の部門に分かれて技を競い交流を深めます。そのときを楽しみに準備を進めてまいります。

今後とも、子どもから大人まで、よりよい明日の富山を目指す課題に、こころをこめて取り組むたいと考えています。

教職員課長 田中 篤人



昨年6月に制定された子育て支援条例の前文（冒頭）に、「子どもは地域の宝であり、未来への希望」とあります。教育の目指すところと方向性は同じですが、今日的課題が多い学

校において、教員が児童生徒と向き合いやすい環境を整えるため、県教委では学校パワーアップ事業を実施しています。

学校や教委における取組実践例等も示していますが、校長先生のリーダーシップのもとで、教員の皆さん一人ひとりがアイデアを出し合い、できることから実践していただくことが大切であると考えています。何よりも日頃からのコミュニケーションを基礎とした風通しの良い職場づくりが不可欠です。隗より始めよで、まずは当課から実践していきたいと考えています。

小中学校課長 長井 忍



本課は、主に富山の教育の継承と創造、確かな学力や豊かな心の育成に関連する事業等の推進に取り組んでいます。また、教職員の健康保持増進を図るため、

併設されている公立学校共済組合富山支部とともに福利厚生事業を展開しています。

学校を取り巻く様々な課題に対して、市町村教育委員会や県内の教育諸団体等との連携を密にし、扱うどんな文書や数字にも先生方や子どもたちの姿を重ねながら、迅速かつきめ細かな対応に心がけていきたいと考えています。

こびず、おごらず、あせらず、くさらず、笑顔と謙虚さを大切に、課員一人一人が持ち味を生かし、互いに補い合いながら業務を推進できるよう努めたいと思います。

新規採用教員212名に辞令交付

県の新規採用教員辞令交付式が3月31日(水)に高志会館で行われ、212名が教員としての第一歩を踏み出しました。

式では、代表者の広井聡一教諭（滑川市立早月中学校）と中嶋恵里教諭（富山いずみ高校）が辞令を受け取った後、赤井美香教諭（高岡市立福岡小学校）が「全体の奉仕者として、誠実かつ公正に職務を執行する」と宣誓しました。

東野教育長は、「子どもたちを慈しむ気持ちが大事。子どもたちを教えはぐくむことの素晴らしさを実感してほしい。」と訓辞しました。



宣誓を行う赤井美香教諭

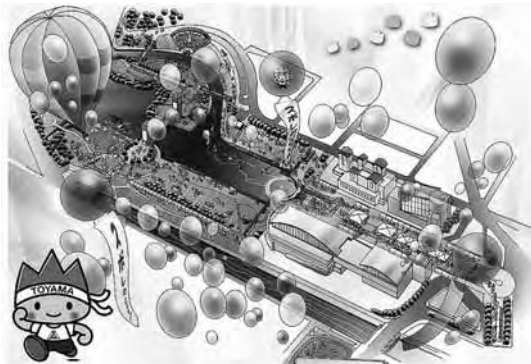
○平成22年度の採用状況は次のとおりです。

小学校	102名
中学校	58名
高等学校	20名
特別支援学校	32名
計	212名
(養護教諭7名を含みます)	

第23回全国スポーツ・レクリエーション祭 スポレクとやま2010

3月30日に、第23回全国スポーツ・レクリエーション祭第2回実行委員会総会が開催され、「スポレクとやま2010」の開催に向け平成22年度の予算や事業計画などが承認されました。

10月16日から19日の4日間にわたり、約2万人の選手、役員等が参加し、県内全市町村を会場に生涯スポーツの一大イベントが開催されます。







開会式・特別行事会場(イメージ図)



開会式演技(イメージ図)

祭典スケジュール

10月16日(土)	10月17日(日)	10月18日(月)	10月19日(火)
開会式 12:40~14:00 富山市総合体育館	  		閉会式 13:00~14:00 オーバード・ホール
特別行事 10:00~16:00(両日とも) 富岩運河環水公園周辺	都道府県代表参加種目 (18種目)		
フリー参加種目 (11種目)			

シンポジウムは9月19日(日)オーバード・ホールで開催します。(13:30~16:30)

3月23日、県庁正面玄関前において、「スポレクとやま2010」のPRに活用する「スポレクカー」の出発式が行われました。スポレクカーは、県内の3企業から無償貸与を受けたもので、石井知事(実行委員会会長)が各社の代表からゴールデンキーを受け取り、「スポレクカーの活用により更にスポレクを盛り上げていきたい」と挨拶しました。車体にはマスコット「きときと君」やスローガンがデザインされています。



平成22年度スクールソーシャルワーカー活用事業

最近の児童生徒の問題行動には、両親の不仲や就労問題、養育放棄等の家庭の問題に起因するものが多く見受けられます。そこで県教育委員会では、家庭訪問等で環境の改善を図るため、スクールソーシャルワーカーを派遣して、問題の解決を支援しています。

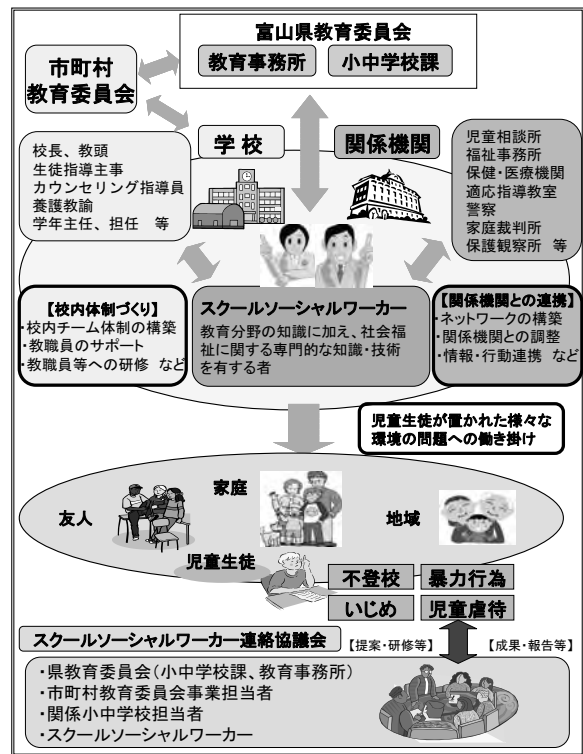
派遣は、事業を開始した20年度には7市町村、21年度には11市町、今年度は県下全市町村へ拡充し、スクールカウンセラー等と連携するため活動時間も大幅に増やしました。

スクールソーシャルワーカー研修会



また、新たに警察OBの方を、学校やその周辺を巡回するスクールソーシャルワーカーとして東部地区・西部地区に各1名派遣し、問題行動への対応に努めています。

各学校においては、教育相談体制のさらなる充実に向け、本事業の積極的な活用をお願いします。



富山県発ひとづくり「科学の芽を育てよう」 —とやま科学オリンピック—

4月19日、子どもたちの科学への関心を高め、科学的才能を見出して伸ばす「とやま科学オリンピック」の調査検討委員会（委員長：池田まさみお茶の水女子大学准教授）が行われました。小学校、中学校、高等学校の3部門を設け、自然科学分野だけでなく、人文・社会科学分野からも出題するなどの基本構想案が示されました。

県と教育委員会では、今年度冬にプレ大会、平成23年度に本大会を実施する予定です。



2年後 富山に創造の風が吹く

—第36回全国高等学校総合文化祭富山大会—

平成24年8月8日から12日の5日間、県内15市町村を会場とし、23部門でコンクールや発表会、展示会等が開催されます。県内外・海外から約3万人の生徒や教員が参加し、約10万人の観覧者が富山を訪れる予定です。

県教育委員会では、生涯学習・文化財室に「全国高等学校総合文化祭推進班」が発足し、準備を進めています。

○今年度の準備スケジュール

- 6月 実行委員会の設立 [日程・会場、基本方針、大会テーマ、マスコットキャラクター等の決定]
- 7月 イメージソング(作曲)、マスコットキャラクター愛称募集の予定

▶イベント

「ふるさと文学情景作品」コンクール 作品募集!

富山ゆかりの文学・映画等や、「ふるさと文学」ゆかりの地をもとに、生徒の感じた心情や情景を表現した作品を募集します。

- 対象：中学校、高等学校、高等専門学校(3年まで) 特別支援学校(中学・高等部) に在籍する生徒
- 部門：文芸、美術、写真

※詳しくは、6月上旬に各学校に配布されるチラシをご覧ください。





国民読書年における 子どもの読書活動の推進について

平成20年6月、衆参両院の国会決議により、平成22年を「国民読書年」とすることが定められました。県教育委員会では、「国民読書年」を子どもの読書活動の推進に向けたよい機会と考え、従来の事業に加え、新たに次の取組みを行うこととしています。

○ 「すすめたい ふるさと とやま 100冊の本」の作成

子どもたちがふるさとと文学に親しむ機会となるよう、子ども向けのふるさと文学紹介リーフレットを7月に小・中・高等学校全児童・生徒に配布します。また、この「100冊の本」の中から主に小・中向けの40冊を選び、2セットを貸し出します。

○ 「ふるさと とやま 読書月間」の設定

11月を「ふるさと とやま 読書月間」とし、各学校の図書館(室)において、ふるさと文学を紹介するコーナーを設け、ふるさと文学への関心を高めるための取組みを進めます。

○ 「読み聞かせ絵本リスト」の作成とフェスティバルの開催

乳幼児(3~4ヶ月と3歳)健診の際に、親子へ読み聞かせ絵本リスト「絵本っておもしろい!」を5月より配布し、読み聞かせを通して親子のふれあいを深める契機とします。また、講演会や読み聞かせ・ワークショップなどを行う「親子読み聞かせフェスティバル」を9月に開催します。



過重労働対策 - 過重労働による健康障害の防止のために -

◎ 疲労の蓄積がある場合は、所属長へ申し出て、面接指導等を受けましょう。

長時間勤務により疲労が蓄積すると、脳・心臓疾患や精神性疾患を発症させることがあります。

長時間労働者への医師による面接指導等(過重労働対策)は、全ての職場を対象に、実施が義務づけられています。

面接指導等とは、対象者に対して医師が面接により必要な指導を行い、その結果を踏まえて、所属長が時間外勤務の削減等の措置を行うことです。



◎ 富山県教育委員会における状況

○ 面接指導等の対象

要件 ①	所属長が、本人の申し出又は日常の観察等により長期間にわたる疲労の蓄積があると思料
	月100時間を超える時間外勤務又は2箇月で月平均80時間を超える時間外勤務
除外 ②	医師が「必要なし」と認めたもの(前月に面接指導を実施済等)

○ 面接指導対象者等の推移 (単位:人)

年度	要件 ①	除外 ②	対象者 ①-②	実施者
H19	20	12	8	8
H20	24	17	7	7
H21	27	12	15	15

【問合せ】市町村立学校・・・各市町村教育委員会
県立学校・・・富山県教育委員会小中学校課 (TEL: 076-444-3443)

平成23年度 富山県公立学校教員採用選考検査の実施について

優しさとたくましさを持つ"とやまの子ども"をはぐくむため、意欲と情熱を持つ人を求めています。

<今年度の変更点>

- 補欠者に対する第1次検査一部免除
前年度検査において「補欠」と決定されたが名簿記載されなかった方を、第1次検査の一部免除の対象者とします。
- 特別選考「スポーツ実績」を新設
中高「保健体育」の志願者で、高校卒業以降に、「国際レベルの大会に日本代表として出場した者」又は「全国レベルの大会で4位以上の成績を収めた者」を対象とします。
- 小学校2次検査で「英語」を出題
小学校・特別支援学校小学部の第2次検査専門教科筆答検査の出題教科の中の「家庭」を「英語」に変更します。

☆平成22年度採用状況データ ※医療科特別選考1名を含む

	小学校	中学校 高等学校	養護教諭	特別支援 学校	総計
受検者数	331	577	54	60	1022
1次合格者数	177	207	15	21	420
名簿登載者数	97	102	7	10	216
採用者数 (うち特別選考)	96 (8)	98 (4)	7 (1)	※11 (3)	※212 (16)

<検査の概要>

1. 受検区分
〔一般選考〕と〔特別選考〕(「社会人経験」「教職経験」「特定資格」「国際貢献」「スポーツ実績」「身体障害」)
2. 実施要項等の交付
平成22年5月10日(月)から、県庁正面案内窓口、県内各教育事務所、県内各市教育委員会、富山県の東京・大阪・名古屋各事務所で交付(郵送でも交付します)
3. 願書の受付期間
平成22年5月17日(月)～5月31日(月)〔簡易書留〕による郵送のみで受付。締切日までの消印有効)
4. 検査期日
第1次検査：平成22年7月24日(土)・25日(日)
第2次検査：平成22年8月21日(土)・22日(日)

問合せ先：教職員課県立学校人事係
TEL 076-444-3441

インフォメーション

参加
無料

スポーツ・保健課

☎076-444-3461

スポレクとやま2010 150日前イベント

時 平成22年5月22日(土) 10:00～

- 所 富山市総合体育館、富岩運河環水公園周辺
- 内 「スポレクとやま2010 150日前イベント」を行います。
- ・富山県スポーツフェスタ総合開会式
 - ・元気とやまウォークラリーin富山
 - ※銀メダリストの田畑、穂積両選手も参加します。
 - ・県民スポレク祭(ニュースポーツ体験)
 - ・スポレクとやま2010PRステージ



H21 スポーツフェスタ開会式選手宣誓

参加無料
(参加募集)

スポーツ・保健課

☎076-444-3462

①元気とやまウォークラリーin富山 (スポレク祭150日前イベント)

②元気とやまウォークラリーin高岡

時 ①5月22日(土) 11:20～ ②6月12日(土) 10:00～

- 所 ①富岩運河環水公園周辺
②高岡古城公園周辺
- 内 ○ウォークラリー
○ニュースポーツ体験
○きととき君によるスポレクPR
★5月22日には、銀メダリストの田畑・穂積両選手も一緒に歩きます。



H21 ウォークラリー in 富山

受講者
再募集

富山県生涯学習カレッジ映像センター(富山県映像センター)

☎076-441-8454

「学んで、活かそう! 著作権」講座

時 1日目 7月24日(土) 13:00～16:45

2日目 8月7日(土) 10:00～15:30

※募集期間～7月23日(金)(定員になり次第締め切ります)

広報誌への著作物の掲載や音楽、映像など創作された著作物の利用について(学校教育での例外規定を含む)、各専門家からの講義を通して正しく理解します。詳しくは、県民カレッジ講座案内をご覧ください。(受講料800円が必要です)



平成21年度講座風景

受講者
募集

富山県生涯学習カレッジ

☎076-441-8401

平成22年度県民カレッジ夏季講座

時 7月16日(金) 18:30～20:00

「自分の才能を育む脳の話
～考える力とこころ～」 林 成之

7月17日(土) 14:00～15:30

「国連開発計画親善大使として
見たこと感じたこと」 紺野 美沙子

所 県教育文化会館 定員 700名(先着順)

締 7月17日まで。定員に達し次第締切

料 受講回数にかかわらず1,000円

HP <http://www4.tkc.pref.toyama.jp/toyama/>



林 成之氏 紺野 美沙子氏

参加者
募集

富山県立図書館

☎076-436-0229

ふるさと文学講演会 泉鏡花と富山 -〈越中もの〉の背景-

期 平成22年6月17日(木) 14:30～16:00

内 講師：泉鏡花記念館
学芸員 穴倉玉日氏

所 富山県立図書館多目的ホール

内 一般 料 無料

締 6月10日 申込みが必要です。



昨年度の講演会の様子

入学者
募集

放送大学富山学習センター

☎0766-56-9230

平成22年度10月入学生の募集

締 8月31日(火) 授業開始10月1日(金)

集団入学手続きは 7月28日(水) 富山学習センター必着

放送大学は、CATVやインターネット配信を利用して、希望する科目を1科目から学べる通信制大学です。教員の方が、上位免許や特別支援学校教諭免許状等を取得するために役立つ科目も開講しています。

HP <http://www.ouj.ac.jp>



放送大学

昨年度に引き続き、学校におじゃまして取材し、みなさんに「学校レポート」をお届けします。

学校レポート

— ESD を意識した日々の授業 —

ESDに取り組むユネスコ・スクール認定校
富山市立中央小学校

富山市立中央小学校は、平成21年2月、ユネスコ・スクールに認定され、ユネスコが提唱しているESD(持続発展教育)の推進に取り組んでいます。中央小では、ESDを「私たちと世界中の人々が生き続けていける未来をどうやってつくっていくのかを、学校や家庭・地域・国・世界を舞台にみんなで調べたり、考えたり、意見を出し合ったりしながら、行動することができるための学習」と捉えています。全教職員の共通理解を図りながら、生活科や総合的な学習の時間を中心に、様々な学習活動の中でESDを実践してきました。



いたち川探検でごみ拾い



ポスターセッション形式で活動の発表

昨年度4年生では、「地球にやさしいTOYAMAに！～レッツゴー！中央エコキッズ」をテーマとした学習を総合の年間計画に位置づけ、国語や社会、道徳など他教科との関連を図りながら行いました。子どもたちが様々な体験を通して、自然の豊かさに気づき、ものや人を大切にしようとする心が育ってきたという成果がみられました。

お話を伺った井沢教頭先生の「ESDと言っても何か特別なことを新たに行うわけではありません。これまで行ってきた活動にESDの視点を採り入れ、先生方にはESDを意識して日々の授業を行ってもらっています。」という言葉に、どの学校でも実践可能な教育活動であることに気づかされました。

リレーエッセイ

天網の効用

富山県総合教育センター顧問 中西 彰

「天網恢々疎にして漏らさず」は教育の場でよく引用される。私も、心ならずも悪魔の誘いに乗ってしまった生徒を前にして、しばしばこの万能のお天道様の力を借りた。併せて、かつて母から言われた「天知る、地知る、我が知る」(正しくは「子知る」を含めた「四知」らしい)にも触れ、「君の心の中にこそ、お天道様がいらっしゃるのです」で結んだ。

実はもう一つ、本意とはまったく違った意味で、この言葉が効用を発揮する場を演出してきた。専門の数学の授業の中で、長年、愚直なまでにこだわって継続した「復習小テスト」の実践である。

漠然と「復習は大事だ」と言っても生徒になかなか通じないことへの対策として、毎時間の冒頭に5分以内の小テストを実施した。限られた時間、ほんのワンポイントの設問で50分の内容を診断するのは乱暴な話だが、前の時間に学んだことすべてが出題範囲になる約束なので、生徒はいやでも一通り目を通して授業に臨むしかない。粗い目のザルのようでも必要なポイントは逃させない作戦だった。

近年、教育行政においてきめ細かい仕組みを次々に考えていただいて、着実に成果を上げているのはすばらしいことだが、教育に投入できる予算や人的資源には限界があり、業務が多様化する中、教科指導そのものにかける時間に制約がある現状において、個々の教員が効果的な得意技を編み出す工夫は欠かせないものではないか。



■執筆者プロフィール
富山市(旧大山町)出身 砺波工業・砺波各高校長、生涯学習・文化財室長、県民カレッジ学長、水墨美術館長を経て平成22年4月から現職

*御意見・感想・学校が元気になるアイデア等お寄せ下さい。

教育長への直通メールアドレス：ml-powerup@pref.toyama.lg.jp